

奥山真佐子ひとり芝居



一葉日記

うもれ木

そして

なからいとうすい

小説の師 半井桃水が創刊した文芸雑誌「武蔵野」に、三作の小説を寄稿した二十歳の樋口一葉。しかし、そんな師との仲が世間の噂となっていることを知り、身の潔白を証明するため師と袂を分かつことに。これまで感じてきた恩義の心とは裏腹に師を失った一葉は、世間を見返せるような小説を書くことを改めて決意する。

ちょうどその頃に、萩の舎の先輩 田辺龍子の紹介により文芸雑誌「都の花」へ寄稿したのが小説「うもれ木」である。一葉の次兄 虎之助をモデルとし、1892(明治25)年11月の第95号から3回に渡って掲載されたこの小説には清廉潔白たらしとする乙女心や、小説で身を立てんとする一葉自身の強い想いが垣間見える。



らいぞう

薩摩焼の絵付師の籟三は、堅物として世間から見放され、腕はありながら思うように作品を発表できないでいた。兄の成功を願う健気な妹 お蝶は、貧乏ながらも慎ましやかな暮らしの中、手内職で家計を支えていた。この二人の前に突如現れた美青年がもたらした一筋の光。前途の希望が見えた先にあるものとは一。



ひぐち いちよう

樋口一葉(1872年～1896年)

甲州市塩山出身の両親のもと東京に生まれ、14歳から歌塾「萩の舎」にて学ぶ。父の他界後、小説家として一家を支えるべく半井桃水に師事。19歳で処女作「闇櫻」を脱稿。今回上演の「うもれ木」により、職業作家への道を歩み出す。数々の小説を発表するが生活はままならず、下谷龍泉寺町にて商売を始める。10カ月足らずで閉店、本郷に戻るも、ここでの暮らしを題材に「たけくらべ」を発表し絶賛を受ける。しかし惜しくも同年11月23日、肺結核により24歳で夭折。2004年に五千円紙幣の肖像となった。日本初の女性職業小説家。

おくやま まさこ

奥山真佐子<樋口一葉・お蝶>

山梨県甲府市出身。文教大学文芸科卒。マキノ雅弘・山田五十鈴・金子信雄・丹阿弥谷津子に師事。一葉の原文に少々の注釈や工夫を加えることで、黙読では得がたい一葉小説の世界を表現する活動を重ねて24年。NHK大河ドラマ「武田信玄」、朝の連続テレビ小説「あぐり」、黒澤明監督「まあだだよ」など数々に出演。NHK「夢見る葡萄」、「花子とアン」、「とと姉ちゃん」の山梨ことば指導を担当。一葉生誕140周年NHK「視点・論点」で一葉への思いを語る。またドラマ言葉指導に対する思いをNHK「視点・論点」で語る。舞台「生きてゆく私」で御園座社長賞(演技賞)、一葉作品連続公演に対して「細うで繁盛記賞」、昨年は、第33回前田晁文化賞を受賞。

ホームページ <http://www.okuyama104.com/>(毎週火曜日に、日々雑感を更新)

こ に た し げ ゆ き

小二田茂幸<作曲>

千葉県鴨川市出身。ギタリスト・作曲家。10代からギタリストとしてアーティストのサポートなどの仕事を始める。20代半ばから新宿区大久保に「STUDIO-M」を構え、ジャンルに特定されない独自の音楽制作を始める。近年は、舞台音楽や邦楽、特に箏を交えた楽曲を手がけている。「樋口一葉の世界 奥山真佐子ひとり芝居」への参加は、6作品目となる。

ないとう みちよ

内藤真代<箏>

福井県出身。幼少の頃よりアララギ楽苑渡辺悠子氏に手ほどきを受ける。第5回全国高校邦楽コンクール第1位受賞。福井県文化協議会新人賞受賞。NHK邦楽技能者育成会第46期卒業。上京後、箏曲以外のジャンルにも意欲的に参加。現在、大久保「STUDIO-M」にて小二田茂幸氏の作品を中心に活動中。2016年9月にアルバム「かしこ」を発表。

ほんま とよたか

本間豊堂<尺八>

東京生まれ。幼少より茶道、箏曲に親しみながら育つ。中央大学「竹桐会」で琴古流尺八を加藤秀和に、生田流箏曲を芦垣美穂に習う。卒業後、古典尺八を横山勝也に師事。演奏・ライブ活動、尺八教室、学校公演を中心に活動するほか、月刊邦楽ジャーナルに「本間豊堂の尺八徹底音出し実験室」を連載するなど幅広く活躍する。日本三曲協会、日本尺八演奏家ネットワーク「JSPN」、全国邦楽合奏協会、小平市三曲協会会員。ホームページ <http://honmatoyotaka.jp/>



<協力>新宿 あいうえお/大久保 STUDIO-M/虹企画(ぐるうぶ・しゅら)/文教学園大学/文京区 法真寺
文京区 喫茶ルオー/台東区立一葉記念館/鎌倉市楠木清方記念美術館/銀座 枝香庵/ギャラリーas
京都&鎌倉 伊と彦/かまくら駅前蔵書室/鎌倉・あさくさ食堂/山梨県甲府市教育委員会/山梨県立文学館
甲州市 常泉寺/有限会社クライム・シンク

原 作	樋口一葉
脚 本	英次ともゑ
演 出	鈴木龍男
所作指導	花柳奈千穂
美 術	佐々波雅子
照 明	須藤 実
床 山	武川卓男
衣裳美粧	佳山みな
舞台監督	稲元洋平
制 作	川上よう子 根本三四子
企画製作	いちまるよん

